

東奥日報
2026年(令和8年)5月8日(金曜日) (14)

八工大 人工芝ピッチ完成

八工大が整備した人工芝のサッカー場



八戸

公式戦対応、夜間プレー可能に

八戸市の学校法人八戸工業大学(武輪俊彦理事長)が同市妙の同大敷地内に整備を進めてきた人工芝のサッカー場(愛称・Blue Field)が完成し4日、記念式典とこけら落としマッチが開催された。(尾坂拓哉)

地域への貸し出し検討



完成を記念してキックインセレモニーを行う熊谷市長(右から2人目)ら

サッカー場は、これまで八工大一高で利用してきた

土のグラウンドを改修。昨年10月に着工し、4月末に完成した。人工芝を敷設し、縦105m、横68mの公式戦に対応するピッチ1面を整備。小学生用としては2面分の使用が可能。発光タ

イオード(LED)照明46台も設置し、夜間でもプレーできる環境を整えた。

同大グループの八工大一高、八工大二高、八工大二附中、さくら幼稚園の生徒、園児の部活動や課外活動のほか、各種大会での活用、地域の子どもたちへの貸し出しも検討している。

式典には八工大二高OBの熊谷雄一八戸市長らが出席。武輪理事長はいざつで「キッズから大人まで地域の皆さんとの交流拠点となり、未永く愛される施設になることを願う」と期待した。

同大サッカー部員は4月末からブルー・フィールドで練習を開始。金子賢治部長は「みんなうれしそう、練習が終わっても帰ろうとしなかった」と笑顔で話す。この日は東北大学サッカーリーグ2部の公式戦をこけら落としマッチとして行い、選手たちは新しいピッチで喜びをかみしめながらプレーした。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」